

日本サッカーの方向性

「日本におけるユース育成の現状と課題」



世界のサッカー: 技術戦術的分析

トレンドの継続・発展(成熟)

「よりテクニカルに、スピーディーに、タフに、そしてコレクティブに」

- レベルの高い選手がチームプレーに徹する(組織力)
- 厚みのある攻撃＝厚みのある守備 攻守の一体化

「全員攻撃・全員守備」

○どのチームも守備が強固に ⇒更にフィジカル要素が重要に！

○強固な守備を崩すためにより高いテクニックと判断のスピードが求められる。
また、個人で打開できる個の存在も重要になってきた



質の高い【個】が不可欠

Japan's Way
進むべき方向

～ 守備のテクニック

守備に関わり続ける個人戦術 ～

☆サッカー選手としての土台

～個を輝かせるために必要な要素～

観る ⇒ 分析 ⇒ 予測・判断
(見る + 把握する)

予測: 相手の意図を読む

ON THE BALL

- ① 1対1の対応力(球際の厳しさ・ファールをしない)
チャレンジの優先順位(ボールを奪う意識)、粘り強さ(責任感)、
ステップワーク、身体の入れ方、スライディング
- ② ヘディングの競り合い

OFF THE BALL

- ① ボール保持者の状況、相手、味方を観てポジションをとり続ける
- ② 1st DFの判断(チャレンジの優先順位) ⇒ 2nd DFの判断
- ③ 判断を共有 ⇒ 意思統一
- ④ チャレンジ&カバーの徹底(守備範囲の広さ)
- ⑤ コンパクトフィールドの形成(前後左右)

ON、OFFでの
的確な判断と
そのスピードが
求められている

ONの質の向上

↑

OFFでの良い準備

エリアを意識して

2013U-12～16国内大会 成果と課題

守備

- 全員が守備に関わり、組織的な守備を志向するチームが増えた。
- プレーの原則の実行が薄い
ボールを失ったらすぐに奪い返す⇒遅らせる⇒ポジションをとる
- 積極的にボールを奪いに行くことは課題
※ポジションとるだけで、奪いに行っていない
⇒個人戦術からの積み上げが必要
 - ・1stDFの判断と対応 ⇒ 周りの選手が共有
 - ・チャレンジ&カバーの徹底(余らない)
 - ・DFラインのコントロール(コンパクトフィールドの形成) etc
- ロングボールの対応(2ndボールの支配)は、引き続きの課題
ポジショニング(準備遅い、マークに付き過ぎる)、DFとMF連携、GKの準備 etc

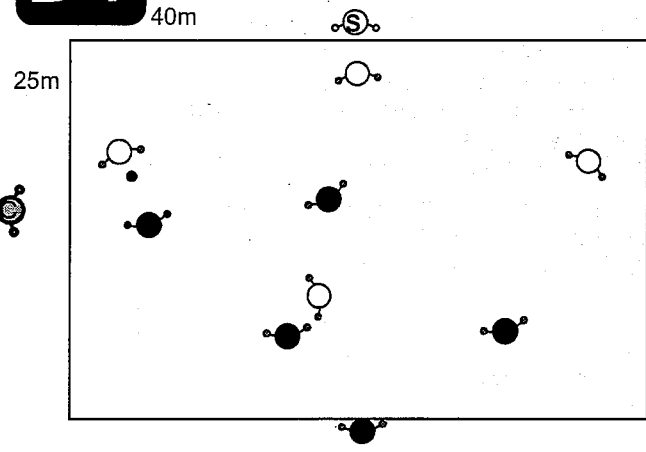
課題

守備は、大きな課題(守備の向上なくして、攻撃の質は上がらない)

フィールドプレーヤー
トレーニングメニュー

守備

D1 4対4ラインゴール



オーガナイズ

- (1) 大きさ: 25m × 40m
- (2) 用具: ボール、マーカー、ビブス
- (3) 方法: ・コーチからの配球でスタート
 - ・4対4でラインゴールでの攻防
 - ・サーバーは、配球のみ。ライン上を守って良いが、そのことで、DFのポジションがあいまいにならないようにする。GKにサーバーをさせ、コミュニケーション(コーチング)も促す

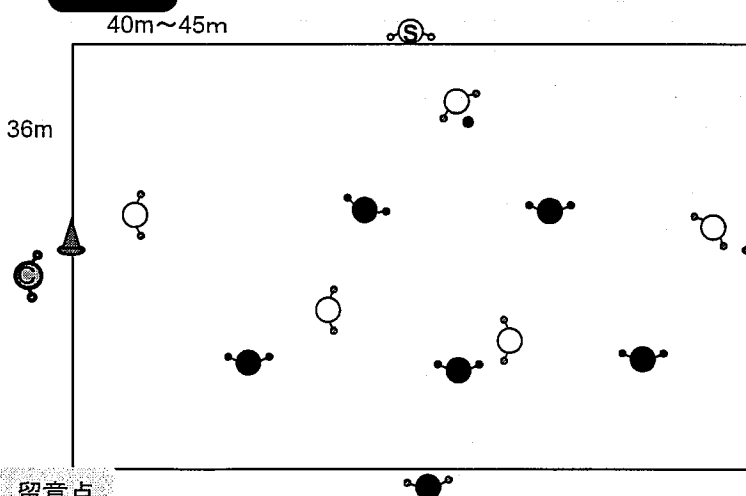
KEY FACTOR

- ・観る(ゴール、ボール保持者、味方、相手、スペース状況)
- ・ポジショニング(ON、OFFの原則)
- ・チャレンジの優先順位(1stDFの決定)
- ・チャレンジ&カバー
- ・予測
- ・コミュニケーション
- ・粘り強い守備(1対1の対応)
- ・攻守の切り替え

留意点

- ・ボールを奪いに行かせることから積み上げる。1stDFにボールを奪いに行く判断を促し、1stDFの状況に応じて2ndDFにポジションを取り続けさせる
- ・ONもOFFもボール状況に応じたポジションを獲得する。初めからワンサイドカットで相手を追い込まない
 - ※最初からグループとして規制のかけ方があるのではなく、ボールを奪いに行く個人の状況判断を共有していく
 - ※コンパクトにするために、必要な要素を働きかけながら、自然とコンパクトになるように働きかける。
- ・DFは互いに観ること、声をかけることで隙を作らない(個人戦術をベースにグループで規制かけるようにする)
- ・攻撃への働きかけを忘れない(ポジショニング、タイミングよく動き出すこと、しかけることなど)

D2 5対5+S ラインゴール



オーガナイズ

- (1) 大きさ: 36m × 40m~45m
- (2) 用具: ボール、マーカー、ビブス
- (3) 方法: ・コーチからの配球でスタート、オフサイドあり
 - ・サーバーのバックパスOK。ライン上を守って良いが、そのことで、DFのポジションがあいまいにならないようにする。GKにサーバーをさせ、コミュニケーション(コーチング)も促す。

KEY FACTOR

- ・観る(ゴール、ボール保持者、味方、相手、スペース状況)
- ・ポジショニング(ON、OFFの原則)
- ・チャレンジの優先順位(1stDFの決定)
- ・チャレンジ&カバー
- ・予測
- ・コミュニケーション
- ・粘り強い守備(1対1の対応)
- ・攻守の切り替え

留意点

- ・DF前2人と後方の3人とGKで、6人が意図的に相手にプレスをかけボールを奪う。ボールを奪いに行かせることから積み上げる。1stDFにボールを奪いに行く判断を促し、1stDFの状況に応じて2ndDFにポジションを取り続けさせる。
- ・意図的にボールを奪うためにコンパクトにすることが重要だが、必要な要素を働きかけながら、自然とコンパクトになるように働きかける。
- ・インターセプトがボールを奪うための最初の手段であり、プレスバックが先にならないようにする。
- ・ボール保持者の状況に応じたポジションを獲得する。ボールの移動中にポジションを修正する
- ・中間ポジション(横・縦)を獲得する(カバーがないとやられるが、カバーが強すぎると自分のマークにやられる) ※お互いを観ることが重要
- ・前向き選手がボールにプレスをかける(特にサイドでの前2人がプレスに行くのか、後方の選手が出てくるのかの判断)
- ・プレスが遅れた場合、一度出させておいて、それから対応する判断も大切(無理やりプレスに行くと裏をやられない)
- ・攻撃への働きかけを忘れない。

フィールドプレーヤー
トレーニングメニュー

守備

D3 5対5 + 1F + GK

オーガナイズ

(1) 大きさ: 60m × 45m

(2) 用具: ボール、ゴール、マーカー、ビブス

(3) 方法: コーチからGKに配球でスタート⇒GKからスタート

KEY FACTOR

- ・観る(ゴール、ボール保持者、味方、相手、スペース状況)
- ・ポジショニング(ON、OFFの原則)
- ・チャレンジの優先順位(1stDFの決定)
- ・チャレンジ&カバー
- ・予測
- ・コミュニケーション
- ・粘り強い守備(1対1の対応)
- ・攻守の切り替え

留意点

- ・スタートは、GKからでDFの前2人は、中央のパスコースと1stDFの決定、前後の関係を意識
- ・後3人は、ボール状況でラインコントロールとマークを意識する
- ・数的不利であるが5人が意図的にボールにプレッシャーをかけボールを奪う
- ・ボール状況に応じたポジションを獲得する。複数の選択肢を持ちながらポジションを取らせる
- ・DFは互いに観ること、声をかけることで隙を作らない
- ・攻撃への働きかけを忘れない
- ・攻撃は、幅と厚みを意識させ、積極的に仕掛けることを働きかける。
- ・積極的にミドルシュートを促す

GKポイント

- ・常にボール状況や周りの状況を観ながらポジションをとり続けているか。
- ・味方へのコミュニケーション(コーチング)
1st DFの決定・カバーの選手達へ・攻めている時のリスクマネジメント

